

スピードスケッチ

アニメーション学科

小柳貴衛

Speed Sketch

Department of Animation

KOYANAGI Takae

近年のタブレットデバイスの発展は目覚ましく、絵を描く身としてツールの使い方と感覚に慣れてしまえば現時点でこれほど自分の思いついたイメージをその場で手早く表現できる「画材」はないと考えている。

そのデジタルの「画材」を生かし、空間の「光」に注目して今回のスケッチは作成されている。作成時間は平均1時間程度。デジタルの利点として暗所での制作も可能となる。

雑踏の中、木々が生き茂る公園、暗い場所、プライベートスペース、有無を言わず過ぎ去っていく時間の中、自分の眼で見た一瞬の色と光をそれぞれのイメージの中に閉じ込める。

また、これらのイメージは完成までの一筆一筆を記憶し、その工程をアニメーションで確認することができる。表現するものとしては「一瞬」だが、それをいかにして一枚のスケッチに封じ込めるかを「時間」をかけて追うことができる。

今回は、完成のスケッチとその工程を表したサムネイル画像を合計8パターン前半に配し、その他の日々のスケッチを合計16パターン後半に配した。

















